

## 1. 言葉の定義

「おじいさんは山へ柴刈り、おばあさんは川へ洗濯」を性別役割分業の観点から十七世紀イングランドにあてはめると、「男性は剣や銃（戦）、女性は糸巻き棒（家事）」になるだろう。性に関して人々が共有する約束事をジェンダーノーム（性規範）と言う。この〈さかさま〉が発生すると、非日常は無礼講や祝祭空間として騒ぎ立てられるが、常態となることはない。浄化され元の世界へ収束していく。

ジェンダーは時間的・空間的距離を貫いて常に一定であるわけではない。ジェンダーは政治的・文化的交錯から切り離すことが不可能であることから、十六・十七世紀イングランド独自のジェンダー観が存在するはずである。当時の多様性を示す証拠として、ジェンダーバイアスフリーを試みた女性の実在が印刷物に残っている。印刷物から透けて見えるジェンダーについて考察した。

## 2. 十六・十七世紀イングランド社会背景

社会とは互いに監視する装置であり、家父長制においては特に女性に対する男性からの庇護と監視を意味する。

父権制社会において、女性は三大美德（貞節・寡黙・従順）に拘束されながら監視・管理され、未婚であれば父親に、既婚であれば夫に従う義務があるとされた。この背景には血の継承がある。DNA 鑑定が無い時代に婚前のヴァージニティーはパスポートや持参金であり、長子相続制において夫は妻のセクシュアリティを監視・管理する必要があった。寝取られ夫は額に角が生えると揶揄されるが、十六世紀末に「女性版 cuckold」の表象が存在している。*A myraculous, and monstrous, but yet most true, and certayne discourse, of a woman* (1588)の挿絵では、四人の子供をもつ未亡人の額から四インチの角が生えている。性規範と性別役割分業から逸脱した女性として非難されているが、逞しく強く生きた女性の例だと言えるだろう。

三大美德から逸脱する女性への批判は印刷物において頻繁に語られる。十七世紀、「A Looking Glass」と名の付くブロードサイドが多く印刷された。ここでの“glass”とは、ミメシスとしての「鏡」と模範としての「鑑」の両義である。特に未婚の乙女や既婚女性へ貞節を説くものが多い。既婚女性への説教として、*The lavves resolutions of womens rights* (1632)は、愛人と駆け落ちする既婚女性を巢穴（家）から獲物を狙うキツネに喩えた。また、*Englands selected characters* (1643)は、価値のある性質と価値の無い性質の一覧になっており、‘A Worthy Queen’に次いで‘An unworthy Queen or woman’という項目がある。‘Worthy women’の項目は無い。価値のないとされる女性は怪物や猛禽類、恐怖の戸棚などに喩えられた。

## 3. 「女の天国」：性別役割分業に縛られない女性たち

ジェンダーノームからの逸脱は、服装に視覚化されることで非難的になる。女性らしい服装をすることは、求められる社会秩序と価値観を受け入れていることを表明する行為となる。ジェームズ一世が1604年に服装法を廃止すると、服装による身分判別が困難となり、1620年にはロンドン主教を通じてロンドン中の聖職者に、女性の「女らしくない振る舞い」を叱責する説教を命じたとされる。この年に出版された三作品 *Muld sacke*、*Hic mulier*、*Haec-vir* における共通語は“deformity”と“masculine”である。

*Muld sacke* は、未婚女性は親に、既婚女性は夫に服従に従う必要性を説き、逸脱すれば“Masculine Woman”だと非難している。*Hic mulier* では、女性が針の代わりに剣を、祈祷書の代わりに卑猥なジグダンスを、慎みの代わりに太々しい態度をする〈さかさま世界〉を非難している。しかし、*Haec-vir* だけ少し異なる。男装した女性(Hic-mulier)と女装した男性(Haec-vir)が互いの性別を間違える会話から始まる。Haec-vi が女性の男装を不適切とみなす理由として Basenesse, Unnaturalnesse, Shamelesnesse, Foolishnesse を挙げ、Hic-mulier が反駁を始める。「女性の異性装（自由な服装）は〈さかさま〉ではない。手をつかって地面を歩いているわけではなく、これが本来の私であり常態である」と主張し、「時代や慣習に媚びて縛られて生きるのは愚かだ」と訴える。目に見える服装は一部に過ぎず、思考や精神において女性には男性と同等の選択の自由・表現の自由があると主張した点が、十七世紀において重要であり、多様な声の存在を記録した証拠であろう。二人は互いに「啓蒙された（臉が上がった）」と感心するが、「互いに女らしい女、男らしい男に戻しましょう」と約束して別れる。社会の監視に適応するために主張を曲げたとされる着地点である。

## 4. 材源比較：The star-crossed lovers / run-away lovers (elopement)

印刷物と演劇は、社会を映す鏡の役割を持つメディアとして共通している。しかし、ビジネスである以上、儲けも必

要だ。シェイクスピア戯曲において性規範や性別役割分業から逸脱する女性を上演する際、許容されるのは男性パートナーの幸福獲得を条件とする場合であり、最終幕場において女性はジェンダーノームへと収束していく。

シェイクスピア戯曲がジェンダーバイアスフリーを試みていた可能性について、アーサー・ブルックによる *The tragicall historie of Romeus and Iuliet* (1587) とシェイクスピアによる *Romeo and Iuliet* (1599) を比較した。ブルックには、世間の監視の目を意識したロミオの冷静な分別と社会性が描かれていたことがわかり、シェイクスピアはこれを削除している。ロミオがマンチュアへ追放される場面で、ジュリエットが「私も小姓に男装して一緒に逃亡する」と言い出すと、ロミオは四か月後に迎えに来るから待つようにと説得している。ここでロミオは、父権制社会において駆け落ちすれば父親が激怒し、二人に追手がかかり、隠れても見つかること、見つければ非難されて厳しく罰せられ、ロミオは強姦者、ジュリエットは愚かで親不孝な子供、ロミオは穢した者、ジュリエットは穢された者になると指摘する(H3<sup>r</sup>-H3<sup>v</sup>)。ゆえに、しばしの快楽を我慢すれば、中傷や汚名を浴びることは無く、ジュリエットの名誉は汚されない、親族と揉めることも無く、苦しみまずに済むと説得する(H3<sup>r</sup>-H3<sup>v</sup>)。

ブルックの描くロミオは恋人を制御する分別と言葉を有し、恋人が“a careless childe” (H2<sup>v</sup>) と非難されないように管理能力を発揮する。ここには庇護され管理されるジュリエット像がある。シェイクスピアはこの場面を削除しており、ロミオを優柔不断に仕立て、ジュリエットを早熟で決断力と行動力に富んだ女性として描いた。材源と比較すると 1599 年の印刷物における恋人たちは父親や親族、社会や名誉よりも、若さと瑞々しさ、勢いに溢れ、無鉄砲だが革新的。しかし、「二人は遠い国で幸せに暮らしました」とハッピーエンドを許さないのは、宗教観や道徳観、情熱と社会規範のバランスを説く教訓として、物語が社会へと収まっていくからである。

## 5. まとめ

社会とは監視（見ること・見られることへの意識）であり、印刷物とは多様性を示す証拠である。ジェンダー観を刷り込む物語は教育を試みるが、ステレオタイプとその〈さかさま〉を識別し決定する自由は、必ずしも社会ではなく、個人の選択によるものだという主張が十七世紀には存在していたこととなる。ただ、収益の話となれば、ミメシスはそのままビジネスにはならない。着地点の見極めが重要であるという事実は、演劇と印刷物というメディアにおいて共通すると考えられる。

## 主要参考文献

- Anon. *A myraculous, and monstrous, but yet most true, and certayne discourse, of a woman*. London: By Thomas Orwin, and are to be sold by Edward White, 1588.
- Anon. *Haec-vir: or, The womanish-man: being an answer to a late booke intituled Hic-mulier: Express in a briefe dialogue betweene Haec-vir the womanish-man, and Hic-mulier the man-woman*. London: printed [at Eliot's Court Press] for I. T[rundle] and are to be sold at Christ Church gate, 1620.
- Anon. *Hic mulier: or, The man-woman: being a medicine to cure the coltish disease [of] the staggers in the masculine-feminines of our times*. London: printed for I.T. and are to be sold at Christ Church gate., 1620.
- Breton, Nicholas. *Englands selected characters, describing the good and bad worthies of this age*. London: Printed for T. S., 1643.
- Brooke, Arthur. *The tragicall historie of Romeus and Iuliet contayning in it a rare example of true constancie: with the subtill counsels and practises of an old fryer, and their ill euent*. London: Imprinted by R. Robinson, 1587.
- Edgar, Thomas. *The lavves resolutions of womens rights: or, The lavves provision for woemen*. London: printed by [Miles Flesher for] the assignes of Iohn More Esq. and are to be sold by Iohn Groue, at his shop neere the Rowles in Chancery-Lane, over against the Sixe-Clerkes-Office, 1632.
- Hic Mulier. *Muld sacke: or The apologie of Hic Mulier: to the late declamation against her Express in a short exclamation*. London: Printed [by William Stansby] for Richard Meighen, and are to be sold at his shops vnder Saint Clements Church, and at Westminster Hall, 1620.
- Shakespeare, William. *The most excellent and lamentable tragedie, of Romeo and Iuliet*. London: Printed by Thomas Creede, for Cuthbert Burby, and are to be sold at his shop neare the Exchange, 1599.